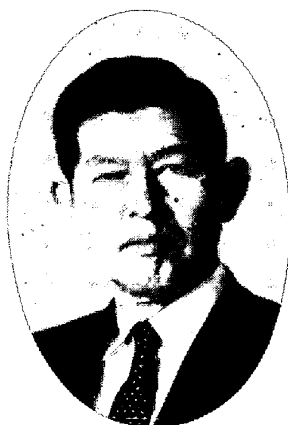


日 本 鉄 鋼 協 会 役 員
会 長



作 井 誠 太 君
東京工業大学名誉教授
東京理科大学教授

副 会 長



不 破 祐 君
東北大学教授

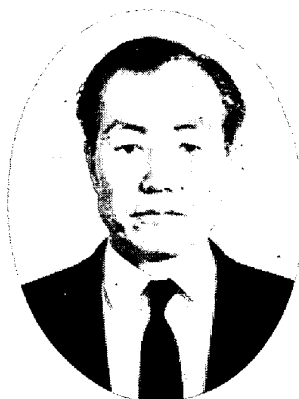


渡 辺 省 三 君
新日本製鉄(株)常任顧問

理 事



田 畑 新 太 郎 君
専 務 理 事



吉 田 道 一 君
常 務 理 事



安 藤 卓 雄 君
(編集担当)
東洋鋼板(株)取締役技術部長



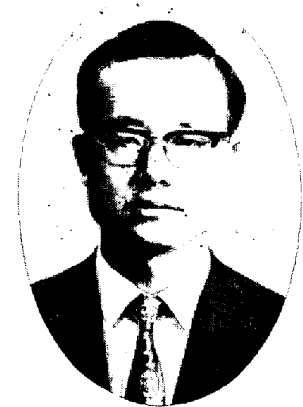
飯島健一君
(庶務担当)
鉄鋼連盟管理部長



岩越忠和君
(編集担当)
愛知製鋼(株)常務取締役



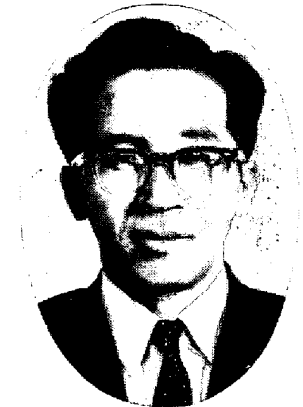
岩村英郎君
(企画担当)
川崎製鉄(株)専務取締役



加藤栄一君
(研究担当)
早稲田大学教授



加藤健三君
(編集担当)
大阪大学教授



川合保治君
(編集担当)
九州大学教授



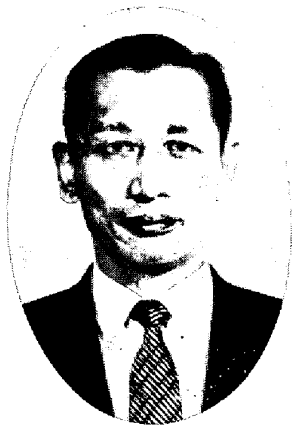
木下亨君
(企画担当)
科学技術庁振興局長



久保慶正君
(研究担当)
(株)神戸製鋼所中央研究所所長



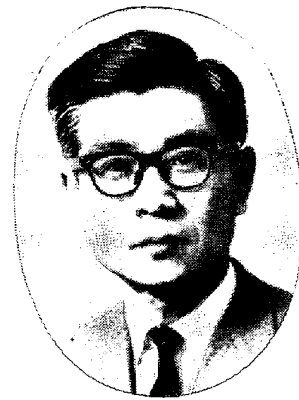
桑原春樹君
(庶務・会計担当)
住友金属工業(株)東京技術部長



鈴木 禎一君
(研究担当)
日立金属(株)安来工場副工場長



田村 今男君
(編集担当)
京都大学教授



田中 実君
(研究担当)
東京工業大学教授



高橋 愛和君
(編集担当)
東北大学教授



高橋 忠義君
(研究担当)
北海道大学教授



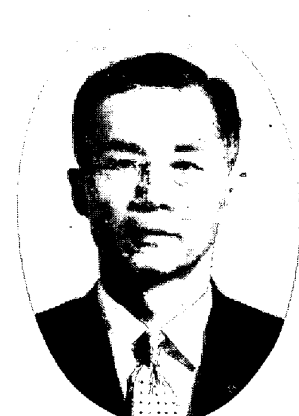
高梨 省吾君
(企画担当)
大同製鋼(株)取締役技術部長



舘野 万吉君
(会計担当)
(株)日本製鋼所専務取締役



中川 龍一君
(編集担当)
金属材料技術研究所工業化研究部長



細木 繁郎君
(会計担当)
新日本製鉄(株)技術開発部長



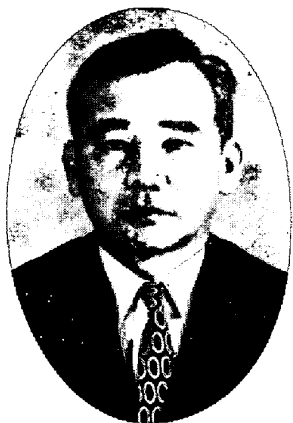
前田正義君
(会計担当)
日新製鋼(株)専務取締役



松下幸雄君
(編集担当)
東京大学教授



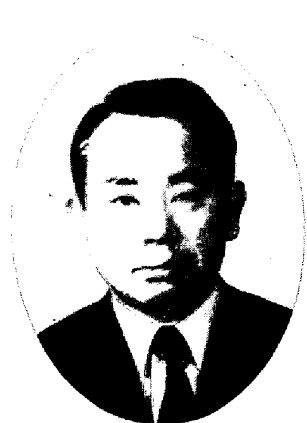
嶺次男君
(企画担当)
新日本製鉄(株)取締役副社長



宮本博君
(研究担当)
東京大学教授



森一美君
(研究担当)
名古屋大学教授



山地健吉君
(庶務担当)
日本鋼管(株)技術部長

監

事



山本勝司君
(企画担当)
(株)中山製鋼所取締役技術部長



石原重利君
新日本製鉄(株)取締役
生産管理部長



青山芳正君
日新製鋼(株)常務取締役
技術開発部長

名 誉 会 員



John F. Elliott (USA)

John F. Elliott 教授は 1920 年ミネソタ州セントポールに生れ、1942 年ミネソタ大学を卒業、46 年まで第 2 次大戦中の 4 年半を海軍士官として勤務したのち、MIT に入り 1949 年に博士号を授与された。1949 年から 51 年まで U. S. Steel の基礎研究所のメンバーとなり、1951 年から 55 年まで Inland Steel に勤務し、最初は研究員後に品質管理部次長となつた。1955 年に MIT の準教授となり、1960 年には正教授となつた。

教授の主要な研究対象は、製鉄、製鋼反応の化学熱力学と冶金反応工学である。教授は冶金反応工学における界面反応の物理化学と製鋼技術に関する多数の論文の著者であり、また製鋼に関する 2 冊の参考書の著者でもある。

教授は AIME, AIChE, AIC, AAAS, カナダ鉱山冶金協会および英国鉄鋼協会の会員である。1940 年以來 AIME の会員であり、同協会から Hunt 賞ほか多数の賞を受けている。

名 譽 会 員



V. I. Yavoiskiy (U.S.S.R)

Yavoiskiy 教授は 1937 年にモスクワの鉄鋼大学 (Iron Steel Institute) を卒業, 同大学で学位をえられ, 1949 年まで Sverdlovsk ポリテクニクの教授, 1956 年までキエフポリテクニクの教授を勤め, 1956 年から 58 年までインド政府の依頼により同国の大学の教育研究設備の拡充の指導助言に当つた後, 1958 年以降, 前の鉄鋼大学, 現在のモスクワ鉄鋼合金大学 (Moscow Institute for Steel and Alloys) の教授となつている.

Yavoiskiy 教授はソ連における製鋼物理化学の研究者および教育者として大きい地位を占め, ソ連を代表する学者として国際的に著名であり, 多くの国際会議に招待講演を行なつている.

わが国には同教授の著者の訳書が「鋼精錬過程の理論」として出版され広く読まれている. また 1967 年以來モスクワおよび東京において隔年に開かれている日ソ製鋼物理化学シンポジウムには重要メンバーとして参加され, 昨年 6 月の第 5 回シンポジウムの際には公開講演を行なつた.